

学ぶ…

日本語と中国語の間

日野 正子



中国語は読めるけれど、聞き取るのはちょっとという人は多いのではないかと思う。もう少し聞き取れるようになりたいという方にお勧めなのが、インターネットでの「NHK WORLD chinese」を利用する独習法である。

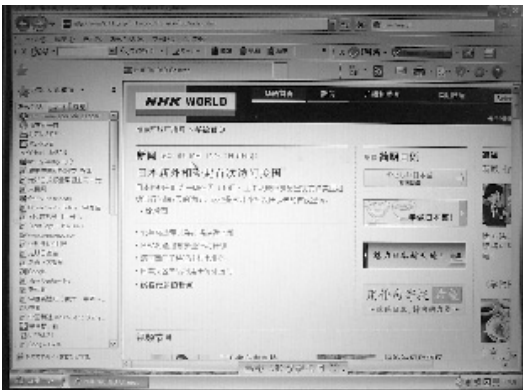
中年になり頭の中の日本語が固まってしまっから中国語を学び始めた私は「聞き取り」が苦手で、今でも密かにその克服に努めているのだが、この「NHK WORLD Chinese」のありがたいところは、ニュースの記事と音声が一致する時間帯があることである。大体夜9時半頃から翌日の午前1時位まで（記事の更新時刻と音声の更新時刻が異なるため）、これを自在に活用して耳を慣らすことができる。

画面の出し方は簡単で、インターネットで「NHK WORLD chinese」を検索するだけ。すると写真の画面が出てくる。それを少し下へスクロールすると画面の右よりに「立即収聴」（直ちに聞く）という文字があるので、それをクリックすると音声だけの画面になる。そこで画面右上の「画面最小化」をクリックすると、画面は最初にもどる。しばらく耳でニュースを聞きながら、画面のニュースを追っていくと、それが一致する時間帯があるのだ。使いは例えばこんな順番で。

①音声だけ聞いてどれだけ聞き取れるか
 ②記事を読んで内容を確認
 ③記事を見ながら音声を聞く
 ④再度音声だけ聞く。音声を一時止めることも前に遡って聞くこともできる。このやり方の

優れた点は、繰り返しすることによって、脳の中の、目から理解する回路と耳から理解する回路が繋がって行くことである。いくら聞いても内容がわからないままだと、楽しくない。

文法にしたがって文字を読んでも理解すること、聞いて理解することは全く別物である。センテンスが長い場合は目を左右に動かしながら関係を読み取ることになる。耳からの場合は戻れないので頭から順に聞いていくほかない。聞きながら読むこ



と又は音読を辛抱強く続けているうちに、文章を読む時に行きつ戻りつという読み方をしなくても、文頭から順を追って理解できるようになってくる。そうなったらもうしめたもので、その時は聞き取りもずっと楽になっているはずである。そして、これまで全く別物であった耳から入る音を認識する回路と目から入る映像を認識する回路に関連ができ始めてるように思えた時、思えば遠くへ来たものだとちょっと嬉しくなるのである。

中国語の語順は英語に近く、動詞が目的語の前に出るが、それさえ押さえておけば、前から後ろへカードをめくるように順番に訳していても大丈夫なように思う。そのようにしていくとイメージが残る。

中国語には四声があり、それを包み込んでさらに大きな語調のうねりがある。それだから、分かりにくい文章でも、声に出して読んでみると文の切れ目と意味が分かってくる。同好のみなさん、どうぞお試しを。